

実践研究

本学「教育フォーラム」の取り組み ー 大学としての現職教育への試行 ー

岐阜聖徳学園大学教育フォーラム実行委員会

Gifu Shotoku Gakuen University's "Education Forum" Initiative: In-service education at a university

Gifu Shotoku Gakuen University Education Forum Executive Committee

キーワード：現職教育 フォーラム 学習指導改善

I. はじめに

本学では、学校現場の先生方も参加できる研修会を、教育実践科学研究センター主催により、夏休みの期間に、岐阜駅近郊において開催してきている。その実績を踏まえ、2017年（H29）の新学習指導要領の告示を期に、愛知県内の卒業生も岐阜県内の卒業生も参加しやすい地である名古屋において「教育フォーラム」を2017年（H29）から開催することとし、3回を数えることができた。

本学「教育フォーラム」の一番のねらいは、本学卒業生を中心として、学校教育現場の先生方に質の高い現職教育の場、主体的な学びの場を提供することである。

大学が主催することで、現在の学校教育をリードされている先生の講演を企画したり、本学の教育研究者がいろいろな立場から提案・提言をしたりすることが可能となる。これは、各学校、地域で行われている研究会・研修会と異なるものである。

本稿は、この3回の「教育フォーラム」の取り組みを記録として残し、問い直し、次へのステップとすることを目的とするものである。

II. 「教育フォーラム」3年間の実際

「教育フォーラム」の3年間の実際と実施に当たって検討されたことを記録として示す。尚、本学関係者については、名前のみを記載し、所属は省略する。

1. 2017年（H29）

メインタイトル：新学習指導要領でバトルする

日 時：6月4日（日）13時から

場 所：名古屋ルーセントタワー16階

教育フォーラムプログラム

13：00～13：10 学長挨拶

13：10～14：10 講演

「新学習指導要領はこうとらえる」 奈須正裕 氏 （上智大学総合人間科学部）

14：25～15：40 アクティブ討論会 「新学習指導要領でバトルする」

登壇者 奈須正裕 氏 柴田好章 氏（名古屋大学） 龍崎 忠 中島葉子

進行 玉置 崇 鈴木明裕

15：45～16：45 情報交流会

若手教師向け授業づくりセミナー

10:00～11:30 岐阜聖徳学園大学附属小学校の算数授業から授業づくりを学ぶ

登壇者 小林永児 (授業者の視点から) 鈴木明裕 (教科教育の視点から)
芳賀高洋 (ICT利用の視点から) 玉置 崇 (授業力向上の視点から)

図1 2017年チラシの内容

図1が2017年のチラシ(資料1)に掲載された内容である。それぞれの内容について、またそれに至る経緯を示す。

まず本学「教育フォーラム」の組織は、

統括責任者：藤井徳行学長 柏木良明副学長 秋山晶則教育学部長

フォーラム全体責任者(兼庶務)：秋山晶則 玉置 崇 加藤弘和教育実習課長

実行委員：◎玉置 崇 加藤弘和 小林直樹 鈴木明裕 成田幸夫 (◎委員長)

支援事務職員：教育実習課、広報課の職員 支援学生：玉置ゼミの学生

というものから始まった。3年間では、2018年より教育実習課長が森社に代り、それぞれの年において登壇者となった寺田光宏、龍崎忠、安田和夫、高村和代、中島葉子が実行委員として加わった。2018年には附属小学校との連絡調整役として小林永児(附属小)が準実行委員として加わった。

日の設定は、夏は岐阜駅近郊で研修会を実施していること、秋は土・日曜日を利用した学校行事が多いことを考慮して、5月、6月の土・日曜日の中で、会場が確保できる日ということで、6月4日(日)に決定された。

当初「教育フォーラム」の企画は、13:00から行われるものだけであった。しかし、会場を借りるにあたって、午前中から確保する必要があり、確保された部屋を有効に使う企画として「若手教師向け授業づくりセミナー」を後から加えた。現在多くの場合「教育フォーラム」というと、午前、午後の両方を意味するようになったが、もともとは午後の企画のみが本学の「教育フォーラム」である。そのため、学長による挨拶は午後にのみ設定している。

「教育フォーラム」の企画については、まず講演を奈須正裕先生に依頼することを決定した。奈須先生は、新学習指導要領のもととなる中央教育審議会において委員を務められていたとともに、以前から本学と関わりをもっていた先生である。

次に、講演を一方通行で聞くだけでなく、議論により深める企画を模索し、参加型アクティブ討論会を考えた。これは、講演を受けて、講演者にも登壇いただき、パネルディスカッションより、理解を深めようというものである。登壇者として、本学関係者だけでなく学外の研究者もお願いしようということになり、名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部の柴田好章先生にお願いすることとなった。本学からは、教科教育の専門でない研究者2名が登壇することとした。

講演、アクティブ討論会の後に設定された情報交換会は、講演ならびにアクティブ討論会を受け、登壇者に直接質問ができる、参加者相互が意見交換ができる場として、講演ならびにアクティブ討論会の



図2 奈須先生の講演の様子



図3 アクティブ討論会の様子



図4 情報交換会の様子

会場と別会場で設定した。情報交換会には、講演者である奈須先生をはじめとする登壇者も参加し、意見交換をした。一方で会場には、和やかな雰囲気を演出するため、飲み物、スナック菓子を用意するとともに、本学の現在を知ってもらえるようにポスター掲示やビデオ映像の放映等を行った。

「若手教師向け授業づくりセミナー」は後から加えられたものであることは既に示した。午後の企画に対して準備が進められていなかったため、準備委員である玉置、鈴木ですぐに対応できる企画ということで、同時期に上梓した「若い教師のための深い学びが生まれる算数授業―ベテランの授業を教育研究者が語る―」¹⁾を会場で示すこととした。つまり、本学附属小学校小林教諭の授業のビデオを会場で流しながら、授業場面の切れ目でビデオを止め、授業者と3人の本学教員の登壇者が議論をする、フロアーからも質問、意見を求めるという形で行った。

広報活動は、はじめてのことであり、手探りで行った。それによって分かってきたこともあった。広報活動として行ったことは、大学ウェブサイトの作成、チラシ作成、チラシを持参しての挨拶、チラシの郵送である。

チラシは5,000枚印刷した。

本学が愛知で行うはじめての企画であるので、愛知県小中学校長会長、名古屋市小中学校長会長をはじめとする教育関係機関に、チラシを持参して挨拶を行った。

チラシは、愛知県内各教育委員会へ各学校数分ずつ郵送した。しかし、その後どのように扱われたかは不明である。

名古屋市内は、本学同窓会名古屋支部「聖和会」の協力により、同窓会員へ配布された。当初、チラシの配布を名古屋市の交換システムを利用させてもらい、市内の全小中学校に配布してもらえないかと考え、調査した。その結果、交換システムを利用するには、名古屋市の後援事業であることが条件であること、その申請に約1か月要することが分かった。2017年は間に合わないことは明確であり、翌年かからどうするかを検討した。後援依頼となると、「名古屋市だけ行うのか」「岐阜聖徳学園大学の企画で、後援に〔岐阜〕の名がなく、他の地域の名のみあるのか」等々の意見が出、後援はどこにも依頼しないこととした。

岐阜県内の教育関係機関へのチラシ配布は、各市町教育委員会・小中学校へ持参または郵送した。

2017年の参加申し込み方法は、チラシの裏面にある参加申込書によるFAXでの申し込みとメールでの申し込みとした。2018年からは、インターネットの申込サイトで行うようにし、FAXやメールでの受け付けはしていない。

2. 2018年（H30）

メインタイトル：新学習指導要領を深掘りする

日 時：6月10日（日）13時から 場 所：名古屋ルーセントタワー16階

教育フォーラムプログラム

13：00～13：10 学長挨拶

13：10～14：10 講演

「深い学びをつくる」 奈須正裕 氏 （上智大学総合人間科学部）

14：25～15：40 アクティブ討論会 「深い学びを生み出すために」

登壇者 奈須正裕 氏 柴田好章 氏 （名古屋大学）

鈴木明裕 寺田光宏

進行 玉置 崇

15：45～16：45 情報交流会

若手教師向け授業づくりセミナー

10：00～11：30 岐阜聖徳学園大学附属小学校の道徳授業から授業づくりを学ぶ

登壇者 山路康代 氏（岐阜・公立小・教頭） 小松 隆 氏（名古屋・公立小・教諭）

岡村佳宏（岐聖大附属小・教諭） 龍崎 忠

図5 2018年チラシの内容

図5が2018年のチラシに掲載された内容である（資料2）。

「教育フォーラム」を開催する適切な時期について、開催会場の地元である本学同窓会名古屋支部「聖和会」に尋ねたところ、名古屋市内の小学校は5月に運動会を実施するところが多いため、5月中の開催となると参加できない教員が多い。6月後半から7月のはじめの時期は、夏休み前の準備で、教員個々が多忙な時期となる。こうしたことから、6月初旬、中旬での開催が適当ではないかという意見を得た。それを尊重し、6月10日（日）の開催とした。

教育フォーラムの企画については、前年の実績と反省から、奈須先生の講演会、アクティブ討論会、情報交流会、午前中の若手教師向け授業づくりセミナーを行うことを踏襲した。

教育フォーラム全体のメインタイトルは、学習指導要領だけでなく各教科・領域の学習指導要領解説が出版されたことを受け、「新学習指導要領を深掘りする」とした。そして、「深い学び」に焦点をあてた講演会、アクティブ討論会とした。アクティブ討論会の登壇者は、講演者の奈須先生、前年に引き続き名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部の柴田先生、本学からは、それぞれ数学教育、理科教育を専門とする2名とし、具体的な事例を通じた討論会を意図した。

「若手教師向け授業づくりセミナー」は、領域から特別な教科へと変わったことを受け、学校現場で取り組みの模索がなされている道徳の授業をとりあげた。セミナーの進め方は、前年を踏襲して、本学附属小学校岡村教諭の授業のビデオを会場で流しながら、授業場面の切れ目でビデオを止め、授業者と3人の登壇者が議論をする、フロアからも質問、意見を求めるという形で行った。登壇者3名は、それぞれ岐阜と名古屋で道徳の実践的研究を進めている現職教員2名と本学の道徳教育を専門とする教員である。学校現場で活躍する先生に登壇いただくことで、少しでも若い教師が参加しやすくなるようにし、理論と実践の融合を図るようにした。進行役として玉置が登壇した。

広報活動は、前年と同様に大学ウェブサイトの作成、チラシの作成及び配布を行った。2018年は初年ではないので、チラシを持参しての挨拶、チラシの郵送は限定的なものとなった。名古屋市内は、前年と同様に本学同窓会名古屋支部「聖和会」の協力により、同窓会員全員へ配布された。岐阜県内は前年と同様に配布した。

2017年の参加申し込み方法は、前年の反省を踏まえ、Webによるものに変更し、図6のようにチラシに示した。

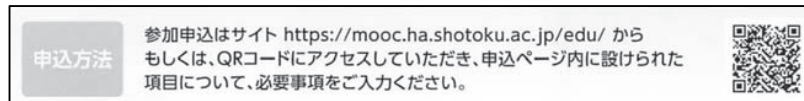


図6 2018年チラシにおける申し込み方法

3. 2019年（R1）

メインタイトル：新学習指導要領を深掘りする

日時：6月9日（日）13時から

場所：名古屋ルーセントタワー16階

教育フォーラムプログラム

13：00～13：10 学長挨拶

13：10～14：10 講演

「真の対話とは」 奈須正裕 氏 （上智大学総合人間科学部）

14：25～15：40 アクティブ討論会 「新学習指導要領でバトルする」

登壇者 奈須正裕 氏 柴田好章 氏 （名古屋大学）

玉置 崇 中島葉子

進行 龍崎 忠

15：45～16：45 情報交流会

若手教師向け授業づくりセミナー

10：00～11：30 「教室でこまったこと」の共有と対話

登壇者 真鍋 淳 氏（岐阜） 岡部 啓 氏（名古屋）

安田和夫 鈴木明裕 高村和代

図7 2019年チラシの内容

図7が2018年のチラシに掲載された内容である（資料3）。

開催時期については、前年を踏襲して、6月第2週の日曜日とした。

教育フォーラムの企画についても、前年を踏襲して、奈須先生の講演会、アクティブ討論会、情報交流会、午前中の若手教師向け授業づくりセミナーを行うこととした。そのこともあり、教育フォーラム全体のメインタイトルも、前年と同じく「新学習指導要領を深掘りする」とした。

そうした中、焦点は「真の対話」とした。アクティブ討論会の登壇者は、講演者の奈須先生、これまでと引き続き名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部の柴田先生、本学からは、授業内の対話、コミュニケーションという視点をもつ研究者2名とした。

「若手教師向け授業づくりセミナー」は、前年までの授業ビデオをみて議論するという形から、「教室でこまったこと」の共有と対話という形にかえた。これは、学校現場の若い教師が、軽度発達障がいの子どもへの対応、学習指導のこと等々悩みを抱えながらも、それを表に出すことができないという声を聞いたからである。参加者には、付箋に、若い人は自分の悩み、ベテランは若い人が悩んでいると思われること記入し、ホワイトボードに貼って共有し、登壇者とともに対話する形でおこなった。登壇者は、特別支援教育に造詣の深い岐阜と名古屋の現職教員2名と本学の特別支援教育、教科学習指導、カウンセリングを専門とする教員3名である。また進行役として玉置が登壇した。

広報活動は、前年と同様に大学ウェブサイトの作成、チラシ作成及び配布を行った。名古屋市内は、昨年までと同様に本学同窓会名古屋支部「聖和会」の協力により、同窓会員全員へ配布された。岐阜県内も前年までと同様に配布した。

「教育フォーラム」終了後、本学同窓会名古屋支部「聖和会」の会報²⁾に図8の記事が掲載された。

行ってきました 教育フォーラム

6月9日(日)に、ルーセントタワーで、岐阜聖徳学園大学主催の教育フォーラムが行われました。日曜日の開催でしたが、参加者も多く、充実した勉強会になりました。

午前中の「若い教師向けセミナー」には、本同窓会の岡部啓先生（指導室指導主事・H3卒）がパネリストとして登壇されました。岡部先生は、『教室で困ったことの共有と対話』をテーマに、主に若い教師の抱えている悩み（学級経営に関わること、支援の必要な子への対応など）について、ご自身の経験を元に、具体的な解決策について答えていらっしゃいました。本同窓会からも、若手会員を中心に、多くの会員が参加していました。



【パネリストとして質問に答える
岡部啓先生（右から3人目）】

行ってきました 教育フォーラム その2

教育フォーラムの午後の部は、中央教育審議会教育課程部会委員の奈須正裕氏（上智大学教授）の講演会と参加型アクティブ討論会がありました。

奈須氏の講演は「真の対話とは？」をテーマに、実際の授業の様子を例に挙げて、具体的にお話をいただきました。

対話的な学び・深い学び・主体的な学びを複合的に考え、子どもたちが学びたいと思える授業を展開してほしい、と教えていただきました。

アクティブ討論会では、「真の対話を生み出すために」というテーマでパネリストの意見を聞きました。パネリストからは、『聞くということを大切にする授業を』という意見が出ました。『知っている人（教師や友達）にわからないことを聞くことができれば、決して一方通行ではない、双方向型の授業が展開できる』という考えが、とても印象に残った討論会でした。



個の理解度が深まらなければ、真の対話はできない。まずは自分の意見をもたせることが大切。

奈須正裕氏



【アクティブ討論会のパネリスト 右から中島葉子氏・奈須正裕氏・柴田好章氏・玉置崇氏】

図8 本学同窓会名古屋支部「聖和会」の会報の記事

Ⅲ. 参加者の状況

3年間の参加者数を表したものが表1である。

集計については、参加者の申告をもとにしているため、不十分な点が多いが、目安、傾向を理解することはできると考える。例えば、2018年は所属種目の不明が35人となっているが、多くは本学学生であると推測される。それを考慮すると、2018年が最も多いがその実際は本学学生の割合が多い。教員の校種別（小・中・高）による集計も興味深いところである。しかし、地域で申し込みをした参加申込書の中には学校名が記載されていないものが多くあり、集計できなかった。

図9は年別に所属種目別の割合を示した図である。本学「教育フォーラム」の主目的である現職教員の参加の割合は、3年とも50%を越え、2018年から2019年へは増加に転じている。

図10は年別に教員参加者の所屬地域別の割合を示した図である。開催地である名古屋の教員の参加の割合が増えている。これは、本学同窓会名古屋支部「聖和会」の協力によるものである。2019年は名古屋からの参加の増加により2017年とほぼ同数の参加者を得ることができた。一方で、他地域からの参加者の減少の分析と参加者の増加に向けどのような手だてをするとよいか喫緊の課題である。

表1 参加者数

	参加者 全体人 数	所属種目別人数					教員参加者の所屬地域別人数(大学教員を除く)					
		教員 ※	その他	本学 教職員	本学 学生	不明	名古屋	尾張	三河	岐阜	三重	その他
2017年 (H29)	181	111	11	25	33	1	16	53	30	6	2	0
2018年 (H30)	248	124	7	22	60	35	33	47	9	12	3	12
2019年 (R1)	182	101	7	25	49	0	41	22	8	9	5	15

※ 教員には、管理職、教育委員会所属職員も含める

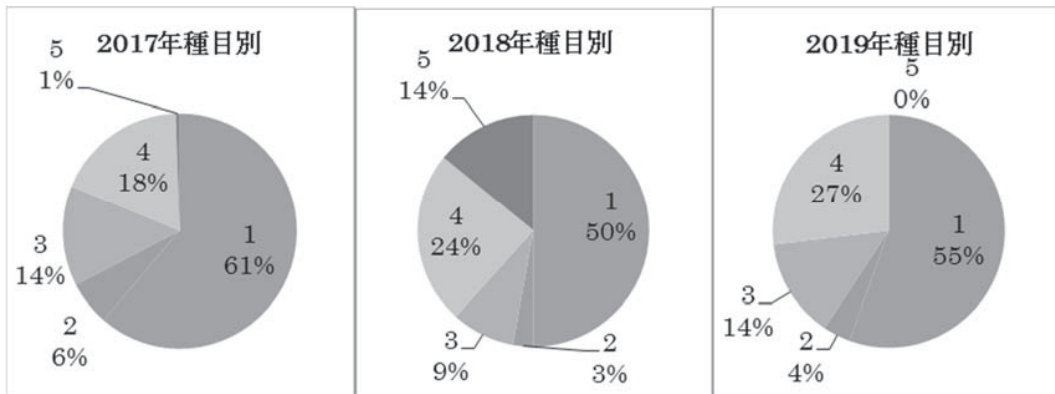


図9 所属種目別人数の割合 1：教員，2：その他，3：本学教職員，4：本学学生，5：不明

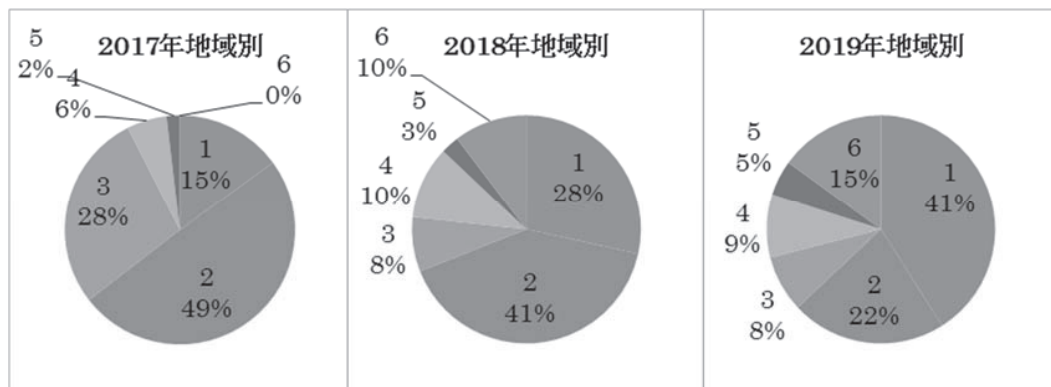


図10 所屬地域別人数の割合 1：名古屋，2：尾張，3：三河，4：岐阜，5：三重，6：その他

Ⅳ. 当日実施のアンケートについて

各回アンケートを実施してきているが、2017年のデータは既に紛失してしまっていた。2018年、2019年はデータがあり、記述意見は参考にすべきことが多い。しかし、2019年はアンケート回収を Web 方式にしたため全部で29件の回答しかなかった。2018年の紙による回収72件に比べ半数以下である。また、アンケートの数値化について判断ができない部分が多い。例えば無回答について「そのイベントに参加していないから回答できない無回答」なのか「回答に値しないから無回答」なのか。それゆえ、本稿においては数値化をして、分析することをしなかった。当日アンケートの方法、内容については、改善すべき課題である。

Ⅴ. 本学「教育フォーラム」3年間のまとめと今後の展望

教育基本法第7条には、大学について次のように示されている。

「第7条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」³⁾

本学「教育フォーラム」の3年間の取組は、まさにこれを具現化したものであるととらえている。

特に2020年から小学校から順次始まる新学習指導要領の全面实施前に、3年にわたって、新学習指導要領をテーマにフォーラムを本学卒業生が多い名古屋の地で開催できたことの意義は大きい。さらに「新学習指導要領でバトルする」「新学習指導要領を深掘りする」といったメインタイトルに象徴できるように、文部科学省から示されたものをそのまま周知するといった内容ではなく、教員養成を主として行っている本学らしい主張も示すことができたことを、ここで明記しておきたい。

フォーラムの企画・運営の組織や展開については、初年からややふらついている感がある。しかし献身的な教員や教育実習課職員により、大きな問題として表面化せず、参加者には満足していただけるフォーラムとなっていると考えている。もっともこうした状況がいつまでも続くとは考えられず、企画・運営については重要な検討課題であると捉えている。

すでに、2020年（R2）の開催日（2020年6月7日（日）名古屋ルーセントタワー16階）は決定し、メインゲストも内諾を得ている。

これまでの本学「教育フォーラム」の経緯から、翌年以降は本学が次期の学習指導要領を提言していくような内容にシフトしていくことがよいのではないかと考えている。また、これまで同様に学校現場の現実に立脚した内容も外すことはできない。

この意味からも上述したように、企画・運営については何らかの策を考えていくことが、本学「教育フォーラム」への期待をさらに増すことにつながると考えている。

注・文献

- 1) 玉置崇, 鈴木明裕, 芳賀高洋, 小林永児 (2017): 「若い教師のための深い学びが生まれる算数授業ーベテランの授業を教育研究者が語る」, プラネクス, 東京.
- 2) 岐阜聖徳学園大学名古屋地区同窓会 (聖和会) (2019): 「聖和だより」, 第12号, 名古屋.
- 3) 例えば文部科学省 HP 教育基本法 http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/06042712/003.htm

資料 1 2017年チラシ 表面

教育フォーラム

2017

Gifu Shotoku Gakuin



新学習指導要領でバトルする

日 期 平成29年6月4日(日)13時から
場 所 名古屋ルーセントタワー16階
(名古屋駅から地下道を歩いて徒歩5分)
参加費 無料

今年は「新学習指導要領」が告示され、教育に大きな変革が始まる年となりました。この重要な年に「教育フォーラム2017」を名古屋にて開催し、教育関係の皆様へ、今後の教育の進め方を示すべく、ご参加いただきたく思います。

皆様、どうぞお楽しみください。ご参加いただきますようお願いいたします。

教育フォーラム 2017 プログラム

13:00-13:10	岐阜聖徳学園大学 学長挨拶
13:10-14:10	講演「新学習指導要領はこうとらえる」 上智大学総合人間科学部 教授 奈須 正裕 氏 中央教育審議会 教育課程委員会 教育課程部長 特別委員会委員
14:25-15:40	参加型アクティブ討論会 新学習指導要領でバトルする ●登壇者 奈須正裕 氏、和田裕幸 氏(名古屋大学) 駒田浩 氏、中島孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) ●進行 玉置崇 氏(岐阜聖徳学園大学)
15:45-16:45	情報交流会

若い教師向け授業づくりセミナー プログラム

10:00-11:30	岐阜聖徳学園大学附属小学校の (午前中の参加可) 授業実践から授業づくりを考える 小林と江(授業者の視点から) 山田謙二 氏(岐阜聖徳学園大学) 西村孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) 芳賀高洋 氏(利根の森から) 玉置崇 氏(授業力向上の視点から)
-------------	--

主催 岐阜聖徳学園大学
〒501-6122 岐阜市東津島町高島一丁目(舊地) TEL: 058-279-3492 FAX: 058-279-6575

裏面

FAX用紙

岐阜聖徳学園大学 教育学部長 宛

平成29年 月 日()

記入者 氏名

教育フォーラム2017 参加申込書

記入者の所属名	
記入者の住所	
記入者の電話番号	

参加者氏名	所 属 名	参加○	
		午前	午後

5月19日(金)までにFAXかメールにてお申し込みください。

FAX 058-279-6575

メール jishu@ha.shotoku.ac.jp

Gifu Shotoku Gakuin

主催 岐阜聖徳学園大学
〒501-6122 岐阜市東津島町高島一丁目(舊地)
TEL: 058-279-3492 FAX: 058-279-6575

資料 2 2018年チラシ (表面のみ)

教育フォーラム

2018

Gifu Shotoku Gakuin



新学習指導要領を深掘りする

日 期 平成30年6月10日(日)13時から
場 所 名古屋ルーセントタワー16階
(名古屋駅から地下道を歩いて徒歩5分)
参加費 無料

「新学習指導要領」が告示され、学校や教育委員会においては完全実施に向けての準備がされているところだと思います。今年も「教育フォーラム」を名古屋で開催し、授業改善の方向の一つとして示された「深い学び」に焦点を当てて話し合いしたいと思います。

皆様、どうぞお楽しみください。ご参加いただきますようお願いいたします。

教育フォーラム 2018 プログラム

13:00-13:10	岐阜聖徳学園大学 学長挨拶
13:10-14:10	講演「深い学びをつくる」 上智大学総合人間科学部 教授 奈須 正裕 氏 中央教育審議会 教育課程委員会 教育課程部長 特別委員会委員
14:25-15:40	参加型アクティブ討論会 深い学びを生み出すために ●登壇者 奈須正裕 氏、和田裕幸 氏(名古屋大学) 駒田浩 氏、中島孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) ●進行 玉置崇 氏(岐阜聖徳学園大学)
15:45-16:45	情報交流会

若い教師向け授業づくりセミナー プログラム

10:00-11:30	岐阜聖徳学園大学附属小学校の (午前中の参加可) 授業実践から授業づくりを考える 山田謙二 氏(岐阜聖徳学園大学) 西村孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) 芳賀高洋 氏(利根の森から) 玉置崇 氏(授業力向上の視点から)
-------------	--

申込方法 <https://mooc.ha.shotoku.ac.jp/edu/fm>
もしくは QRコードにアクセスしていただき、申込ページに遷移された
後、お申し込みください。必要事項を入力してください。

主催 岐阜聖徳学園大学 〒501-6122 岐阜市東津島町高島一丁目(舊地) TEL: 058-279-3492 FAX: 058-279-6575

資料 3 2019年チラシ (表面のみ)

教育フォーラム

2019

Gifu Shotoku Gakuin



新学習指導要領を深掘りする

日 期 2019年6月9日(日)13時から
場 所 名古屋ルーセントタワー16階
(名古屋駅から地下道を歩いて徒歩5分)
参加費 無料

「新学習指導要領」が告示され、学校や教育委員会においては完全実施に向けての準備がされているところだと思います。今年も「教育フォーラム」を名古屋で開催し、授業改善の方向の一つとして示された「真の対話」に焦点を当てて話し合いしたいと思います。

皆様、どうぞお楽しみください。ご参加いただきますようお願いいたします。

教育フォーラム 2019 プログラム

13:00-13:10	岐阜聖徳学園大学 学長挨拶
13:10-14:10	講演「真の対話とは」 上智大学総合人間科学部 教授 奈須 正裕 氏 中央教育審議会 教育課程委員会 教育課程部長 特別委員会委員
14:25-15:40	参加型アクティブ討論会 真の対話を生み出すために ●登壇者 奈須正裕 氏、和田裕幸 氏(名古屋大学) 駒田浩 氏、中島孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) ●進行 玉置崇 氏(岐阜聖徳学園大学)
15:45-16:45	情報交流会

若い教師向け授業づくりセミナー プログラム

10:00-11:30	「教室でこまごまのことの共有と対話」 (午前中の参加可) 山田謙二 氏(岐阜聖徳学園大学) 西村孝子 氏(岐阜聖徳学園大学) 芳賀高洋 氏(利根の森から) 玉置崇 氏(授業力向上の視点から)
-------------	---

申込方法 <https://mooc.ha.shotoku.ac.jp/edu/fm>
もしくは QRコードにアクセスしていただき、申込ページに遷移された
後、お申し込みください。必要事項を入力してください。

主催 岐阜聖徳学園大学 〒501-6122 岐阜市東津島町高島一丁目(舊地) TEL: 058-279-3492 FAX: 058-279-6575

— 174 —